

令和7年度子どもの新たな体験活動の創出と地域の再発見事業(報告)

- 1 学校名 水戸市立寿小学校
2 実施日時 令和8年1月29日(木) 8:40~13:30
3 参加者数

- ・児童 104名
- ・引率 6名
- ・ボランティア
保護者 8名
ひとまち 7名

- 4 テーマ
水戸まごころのタイム 第6学年テーマ「自分の未来をみつめよう」

5 ねらい

- 事業所見学や公共交通機関の活用を通して、地域の理解を深め、地域のよさに気付くことができる。
- 小グループでの体験活動を通して、自ら考え、行動する主体性を身に付けることができる。
- 自分が体験した職業について情報を整理し、プレゼンテーションソフトを活用して、友達に伝えることができる。

6 事業を通して

(1) グループ数 16

(2) 事業所訪問数 16箇所

(3) 子どもの様子・声

- ・神主さんにお祓いの仕方を教えてもらった(常磐神社)。
- ・自分が働くときに、今日聞いたことを心がけたい。お客さんのことを第一に考えていてすごい(伊勢屋)。
- ・動物が好きなので、動物のことを知れてよかった(アニマルメディカルセンター)。
- ・困っている人を助けたり、落とし物を交番に届けたり、今後人々と助け合うために、教えてもらったことを生かしたい(県警本部)。
- ・いろんな本を見られた。本を借りるときに、今回学んだことを生かしたい(県立図書館)。
- ・「その職業に就くためにはどうしたらいいですか。」という質問に、「アルバイトやとりあえず近い道からやるのが大切です。」というアドバイスをもらったので、その言葉を将来に生かしたい(ワンダフルパートナー)。
- ・「この仕事のやりがいは何ですか。」という質問をしたら、「いろんな人と楽しく話すこと。」という答えだったので、私もそういう楽しいことをしたいと思いました(偕楽園)。

(4) 成果と課題

○ 成果

- ・目的地への行き方、ルートなどを調べ、計画を立てる力が身に付いた。
- ・自分で知りたいことや課題を設定し、インタビューをして問題を解決することができた。
- ・公共の交通機関を利用したり、事業所等を訪問したりすることによって、地域の理解を深め、地域のよさに気付くことができた。

○ 課題

- ・訪問先の人数制限や場所、活動時間等から児童の希望を全て叶えることはできない。また、グループ編成に時間を要した。
- ・訪問先によつての活動内容に差があったため、活動の主旨について確認する時間をとり、充実した体験活動となるようにしたい。

7 写真

